



- 1 涛音寮
- 2 ギャラリーてしま
- 3 工房ラパロマ
- 4 ギャラリーふくもと
- 5 くにさき六郷舎
- 6 国見ふるさと展示館
- 7 陶房ふくなが
- 8 重光家住宅主屋
- 9 竹工房一会庵
- 10 グロースII
- 11 ギャラリー亀屋
- 12 すずめ草
- 13 Chikuhō Bamboo Art Lab.
- 14 ギャラリー流水
- 15 三日坊主 我楽多
- 16 北村商店
- 17 国見郷愛記念館
- 18 きよか堂
- 19 かのや
- 20 ギャラリーマサヤ
- 21 イミテラス
- 22 ギャラリー笑楽なのはな
- 23 ノダシード
- 24 ギャラリー村田
- 25 ギャラリーのり子
- 26 アトリエ JUN
- 27 atorie はなぐるま
- 28 くにさきかたち工房

小野豊一さんは、妻の美希さんと長女の紗新ちゃんの3人家族です。豊一さんは、広島県北広島町で染物職人の修業をしていましたが、染物作家として独立を考え、移住先探しを始めました。豊一さん達は住んでいた北広島町は、雪が深く寒かったので、もう



理由 国見に移住してきた

通りに移住してきた小野豊一さんご家族は、条件の合う空き家を見つけ、そこから物件の近くにあるノダシードで移住体験をし、移住への不安を取り除いて移住しました。まさに、中野さんが考えていた移住するまでの過程を体感した人と言えます。



▲イミテラス



▲ノダシード

少し暖かいところに行きたいと九州方面で空き家を探しました。妻の美希さんは、陶芸作家ですが狭くても創作活動ができるので物件にこだわりはありませんでした。しかし、豊一さんは染物をするには広い作業スペースが必要で、なかなか条件に合う物件はありませんでした。九州の空き家バンクのホームページの中から条件の合う空き家をようやく国見町に見つけました。しかし、知人の移住経験者から「物件が条件にあうかも大事だけど、住んでみなければ分からないことの方が大事」と言われていました。

豊一さんは、国見町が自分達のように創作活動をする人間を受け入れてくれる土地なのか不安でした。しかし、同じ土地に移住して来た先輩の中野伸哉さんの話を聞いた後、移住体験を行ったことで不安が解消されていきました。美希さんは、近所に野菜の育て方を習い、家庭菜園を始めました。また、紗新ちゃんも周囲の人がよく声をかけてくれました。そして、何よりも、豊一さん達が心強かったのは、自分たちと年齢が近い創作活動をしている仲間が何人も居たことでした。豊一さん達は、これからもっと国見は、自分達のような若い家族が移住してくる可能性をたくさん持っていると感じているそうです。

くにさきアートフェスタ2015

「文化・芸術によるまちづくりの推進」を合言葉に、市内の各種団体が連携して10月10日から11月1日までの23日間くにさきアートフェスタ2015が開催されました。国東市が合併してから最大の住民始動で複数の団体が連動したイベントとなりました。どのようにしてアートフェスタ2015が誕生したのかを振り返っていきます。



千燈プロジェクト



伊美ギャラリー通り



岐部プロジェクト



成仏プロジェクト

くにさきアートフェスタは、昨年の10月4日から11月30日までの約2か月間開催された「国東半島芸術祭」(以下「芸術祭」)で設置された作品と関わった人達が土台となっています。芸術祭は、開催期間中に約6万人の方が訪れ、アートプロジェクトが設置された会場は県内外からの多くの方で賑わいました。しかし、芸術祭が閉幕し、会場を訪れていた人達はいなくなり、設置された芸術作品だけが残りませんでした。

それでも、芸術祭終了後の今年3月15日には芸術祭のスタッフとして移住し、



▲成仏プロジェクトの交流会

てきた吉田拓也・真由美さんご夫妻が、岐部プロジェクトの作品「説教壇」を利用して「ペトロの森ウエディング」を挙げました。また、2週間後の3月29日には成仏プロジェクト「ハンドレッドライフハウス」を制作した宮島達男さんと成仏地区の皆さんが交流会を実施し、それぞれの会場で、芸術作品を利用したイベントが行われました。

しかし、そのイベントは、芸術作品が設置されている地域の方がイベントのある日だけ芸術作品を利用しているだけで、設置されている芸術作品を有効に利用するという課題を解消するまでには至りませんでした。そのような中、芸術祭に関わっていたNPO法人国東半島くにみ群、国見アートの会、国東半島峯道トレイルクラブ、国東市商工会の国見支部・観光部会・青年部、エコツアーガイドの会、岐部地区、千灯地区、成仏桜会、国東市観光協会が集まって、芸術祭のアフターイベント

芸術・文化活動が定着していた国見地域

特に実行委員会の中でも中心的な役割を担ったのは、以前から芸術・文化活動が地域に定着していた国見地域の方達でした。

国見町伊美にある涛音寮は、明治中期に造り酒屋として建てられた3階建ての家屋。木造の3階建ては非常に珍しく、酒屋が閉店した後には地域の寄席の会場や文化発表の場としても活用されていきました。約20年前に表具作家の和田木乃実さんが工房とギャラリーとして涛音寮をオープンした頃から、自然と国見町に全国から芸術家が移住してくるようになりました。

そして、移住してきた芸術家の皆さんは、国見にたくさんの人を呼ぶために、みんなで一緒に展示会を開こうと、6年前から国見町工房ギャ



ペトロの森ウエディング▶